

福祉の閲覧室 第87号

2014年8月1日発行
日本社会事業大学附属図書館報
Japan College of Social Work Library Report

「本に触れることについて」

暑くなると必ず行きたくなる場所があります。1階では小さな子どもたちの声がし、2階では、パラパラと本や新聞をめくる音、3階にあがると、カタカタとパソコンにレポートや卒業論文を打ち込む音や、カリカリと文字を書き連ねる音…私は、そんな涼しくて静かな場所である図書館が大好きです。

大学生生活3年目、図書館は書物を読むだけの場所にしては勿体ないということを感じています。本棚にたくさんの本が並んでいる景色から目に止まった本に触れてみるもよし、福祉のことは気になるので「福祉新聞」を読んで帰るもよし、視聴覚室を利用するもよし、と思います。

図書館は様々な過ごし方ができる空間であると思います。7月や12～1月にかけて大半の学生は、レポート課題や定期試験に追われますので、図書館を利用する方は多いと思います。この機会に「自分なりの図書館での過ごし方」を見つけてみてはいかがでしょうか。

突然ですが、私は本を読むことに苦手意識がありました。一時期は、そもそも活字を追うことに対して、どのようなメリットがあるのか疑問を抱きながら課題図書に取り組んでいたこともありました。先日発行されたある新聞記事によりますと、大学生の約4割が1カ月に本を1冊も読まないことがあると回答しているくらいですから、本は嫌いでも本を読む機会が減っている人も多いと思います。

しかし、ぜひこの1冊だけでもいいので、読んで損はない本があります。それが藤井孝一の『読書は「アウトプット」が99%』(※

Library Life



援助学科3年 中川めぐみ

1)です。本を読むことへの姿勢について、読んだあとにすることなど、読み始めから読み終わりまでのガイドラインのような1冊です。またこの本を通して自分の生活を見つめ直すこともできる1冊でもあります。私はこの本を通して本を読むことに抵抗感がなくなり、今では文庫本程度の大きさの本を持ち歩くようになりました。尚、この本は社大の「読書マラソン」のコーナーに選ばれた本でもありますので、ぜひ読んでみてください。そして小説でおすすめしたい本として、坂木司の『和菓子のアン』(※2)です。この本は、タイトルにもありますように、多様な種類の和菓子が登場してくる本です。甘いものが大好きという人も少なくないと思います。この本を通して和菓子の歴史、和菓子に込められている人の思いを感じることができま

す。おかげで少し和菓子について知識がついたように感じます。食べるものに関しての知識が持てるようになると、さらに食べるのが楽しく感じられるようになると思います。

最近電子書籍が普及してきていますが、本の厚みや、デザインに惹かれて実際に手に触

れることができることは電子書籍にはできないことだと思います。これから公務員試験や、国家試験の勉強や、卒業論文、実習、アルバイトや課外活動などと、忙しい夏休みを過ごす方が多いと思います。ちょっとした時間に本との素敵な出会いがありますことをお祈りしております。

(※1)『読書は「アウトプット」が99%』は、3階読書マラソンコーナー（019.12-フ）にあります。

(※2)『和菓子のアン』は、3階読書マラソンコーナー（913.6-サ）にあります。

本棚から1冊

ユクスキュル『生物から見た世界』岩波文庫、2005 ※現在整理中

紹介者：大野ロベルト社会福祉学部助教

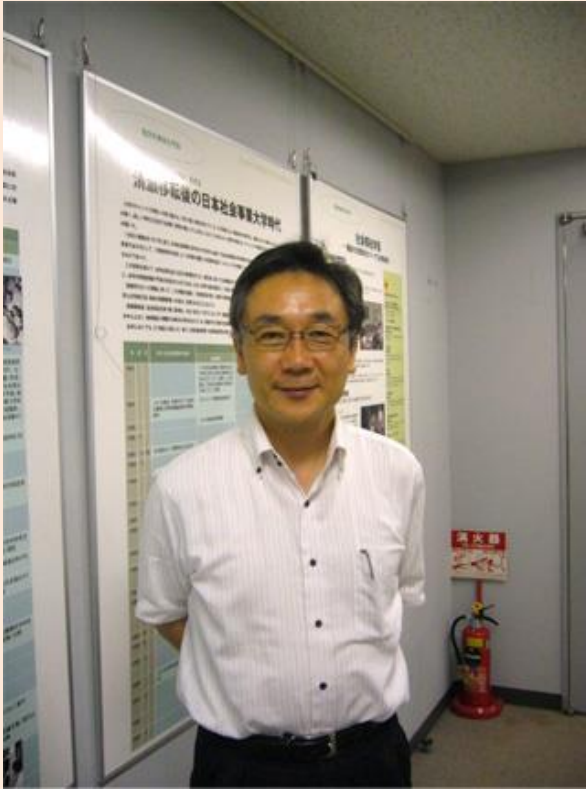
クモの巣の造形は魅惑的である。自然界がああ幾何学的な網のお手本を与えずとも、人類は自力で網を発明することができたろうか。少なくとも、空中ブランコの下に安全ネットをめぐらせることはなかったかもしれない。それにクモが糸を張らなければ、スパイダーマンという英雄も存在しないことになる。それもまた寂しいではないか。何にせよ、要するにクモは、人間の世界に少なからぬ影響を与えている。

だがそれは、人間の世界にクモを強引に巻き込んだ結果に過ぎない。というのも本来、クモの巣は「透明」だからである。チョウやトンボなど、クモにとって餌である虫たちには、巣は遥かに目につきにくい。考えてみれば当然のことで、もし虫たちにもそれが人間の目に見えるようにはっきり見えたならば、あれだけ鋭敏で素早い虫たちが餌食になるはずがないのである。反対に人間の目に巣が容易に見えることは、すなわち人間がクモにとって捕食の対象ではないことを意味している。

以上の例からもわかるように、生物にはそれぞれに世界がある。この世界を、ドイツで活躍した生物学者・哲学者であったユクスキュルは「環世界」と呼ぶ。「環境」と「世界」の合成語であるこの概念は、それぞれの生物にとっての「世界」が、その生物を取り囲む「環境」から成り立っているということを示している。私たちが何気なく「世界」と呼んでいる場所は、何百万という種に分かれる生物それぞれの「環世界」が複雑に入り組んだ、それこそクモの巣のようなネットワークなのである。

しかも生物の「環世界」は固定されたものではない。例えば人間にとって椅子は普段なら「座るもの」だが、高いところにあるものを取りときには「昇るもの」になり、寒くて仕方がないときなら「燃やすもの」にもなり得る。このように同じ人間でも「環世界」は千差万別であり、他者を理解するためには、そのひと特有の「環世界」を理解しなければならないのである。これはもちろん、福祉従事者にとっても大変に重要な課題であろう。

本書は決して難解ではない。平易な文体とクリサートによる味わい深い挿絵によって、読者はすんなり最後の頁までたどりつくだろう。書物を読み終えることは思索の始まりを意味する。その思索を伴走する新たな「世界への見方」を読者に与えることができるかどうか書物の価値基準であるならば、まさに「世界への見方」を扱う本書は名著に他ならない。



辻図書館長 Interview

本年4月に図書館長に就任された辻浩教授にお話を伺いました。

Q. 図書館長就任後3ヶ月が経ちましたが、いかがでしょうか。

以前から本学に寄贈されていた患者同盟資料の報告書がまとまり、日患同盟さんにも喜んでいただき、感謝状をいただくことができた。このように、社会的に貴重な資料が整理されて、まとまってきた。これは、私の任期ではないときに始めてくださっていたことですが、図書館長に就任するなり、資料整理の報告書の完成に出会わせていただいて、良かったなあと思っています。

図書館運営委員会を1度しか経験していないのですが、学内の先生方、学外の有識

者、職員の方が大変熱心に図書館のことを考えられていて、いままで全学教授会で報告を聞くだけだった身からすると、「ああ、こんなに熱心に協議をされていたのだなあ」と改めて気がつきました。

Q. 社大の図書館の魅力について熱く語ってください。

熱いかどうかはわかりませんが（笑）・・・社会事業大学の図書館は大学附属の図書館だけではなく、戦前にあった社会事業研究所の図書館を引き継ぐという形で発足している。その意味で言うと、戦前の社会事業の貴重な図書をまるごと本学が所蔵している。それらの貴重な図書を目当てに、他の大学の研究者が夏休みなんかに関覧に来られている。そういうのを見ると、大変すばらしい、誇れるものだと感じています。

一方で学生が読む本においては、予算が十分ではない中で、学生目線で本を選んで、よく利用される本を購入されているのが良いなあと感じます。特に読書マラソン推進委員の学生が、図書館の職員と一緒に本を選んだり、本のPOPを付けたりして、学生が「本を読んでみよう！」という雰囲気を変えているのがすばらしいなあと感じます。図書館というと学生が積極的にかかわる余地は持ちにくい場所だと思うのですが、そういう形で一緒になって図書館を良くしてくれている。それは、大学にとっても学生にとっても、すばらしいことだなあ、と感じています。

Q. 利用者さん（特に学部生への）メッセージをお願いします。

今はパソコンが発達して、情報を得るということだけで言えば、手軽に情報を得ることができるようになった。その時代のなかで、危惧されることがあります。情報が文脈なく使われる、あるいは、価値観・倫理観を度外視して、情報だけが行き交うというような弊害です。その意味では、図書館で本を最初から最後まで読み通すということは、単に情報をえるだけではない、ひと

つの「知」をきちんと身に付けていく有力な手立てです。「知」が蓄積されていくと、その人の生きる思想・指針が見えてくるのではないのでしょうか。情報だけにしか接していないと、情報に振り回されて、「自分ってなんなのだろう」とか「人生を通してなにをするんだろう」と、そういったことが見えにくくなってしまふことがあると思います。ぜひ、まとめりとして「知」を学んでいくという意味で、図書館の本をどんどん読んでもらいたいなあ、と思っています。

選書ツアー

学部生や院生に参加者を募り、図書館職員を含む10名程度で大型書店に行きます。限られた予算の中で、社会事業大学の図書館に所蔵したい資料を、学生目線で選定してきます。一部、選定除外分野が設定されていますが、基本的には何を選んでもOKです。

書店より渡されるバーコードリーダーにて、各自、所蔵したいと思う図書の裏表紙にあるISBNナンバーのバーコードをスキャンし、データを読み込みます。制限時間は2時間です。

終了後、選定データが書店担当者によってまとめられ、図書館に送られてきます。送られてきた選定データをもとに、すでに図書館に所蔵しているかどうかのチェックを行います。重複していなければ、購入予定となります。その後、発注・受入・整理を行った後、図書館3階の読書マラソンコーナーに、読書マラソン推進委員が展示しています。

選書ツアーは、2010年度より始まりました。毎年1~2回開催され、約80点が選ばれています。初年度は特別な予算がつき、通常より多くの図書が選定されたため、現在選書ツアーにて受け入れた資料は、計650点を超えました。



今年度は6月に開催しました。選ばれた69点は現在、図書館2階の展示コーナーに配架してあります。夏休みの長期貸出を利用して、読んでみてはいかがでしょうか？

選書ツアーに興味のある方は、今後ぜひご参加ください。

「福祉の閲覧室」次号は、2014年11月発行予定
日本社会事業大学附属図書館 (Lib@jcsu.ac.jp)
〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30
TEL: 042-496-3030